



# しらかば北

発行責任者  
井上文夫

## 統一地方選挙の結果について

先に行われた全国統一地方選挙において、日本共産党は前半の県議選・政令市議選、後半の区市町村選のいずれも全体として改選議席を下回りました。

住民の利益のために草の根で奮闘している多くの立候補者を落選させたことは悔しく残念です。統一地方選でも「共産党は異論を認めない党」などの反共キャンペーンが一部の大手メディアで大々的に宣伝されたこと、岸田政権の大軍拡の危険をまともに報じない状況など、2021年総選挙以降続いている野党共闘と日本共産党に対する激しい攻撃と、大軍拡・大合唱の

の「二重の大逆流」が後退の大きな要因です。

しかし、その中でも「戦争の準備ではなく平和の準備」と反戦平和を真つ向から訴え、反共キャンペーンに対しては綱領と規約に示された日本共産党の本当の姿を語る努力をしてみました。

これらの行動は必ず今後に生きるものと確信しています。

私たちはもつと自力をつけ、党を大きくして日本の平和と皆さまの暮らしを守る先頭に立ちたいと決意しています。

今後ともご支援とご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

(井)

## 第94回メーデーが4年ぶり柏公園で開催される



5月1日、柏公園で4年ぶりに再開されたメーデーは、快晴の空の下400人超の人々が、集まりました。

- ・物価高上回る大幅賃上げを
  - ・大軍拡増税とんでもない
  - ・9条生かした平和外交を
  - ・改憲NO！9条守れ
  - ・私のお金で戦争しないで
- 多くのスローガンを掲げ柏駅までデモ行進を行いました。

## つくし野病院が5月30日で閉院

地域の医療機関として、1980年(昭55年)の開院以来43年間、地域に頼れる病院として存在しましたが、施設老朽による療養環境の維持困難ということで5月30日で閉院となります。



閉院される つくし野病院

## 日本の平和と安全は外交でこそ！

岸田内閣はロシアのウクライナ侵略を口実に「自分の国は自分で守る」として、大軍拡路線を打ち出しています。「専守防衛」を堅持するとしながら、世界第3位の軍事大国を目指す防衛方針は敵基地攻撃能力を備えた「戦争が出来る国」そのものです。「憲法9条」とは全く相容れないものです。

特に中国を意識した与那国島や石垣島などの南西諸島に自衛隊ミサイル部隊を配備する計画は、日中両国の軍事緊張を一気に高めました。いかにして日中両国関係の前進の打開をはかるか、日本共産党の志

第1点は2008年の日中首脳会談で「双方は互いに協力のパートナーであり、互いに脅威とならない」という合意がなされたことです。第2点は2014年に日中両国は「尖閣諸島の緊張問題は対話と協議

を通じて解決する」と合意していることです。第3点はASEANが提唱している「ASEANインド太平洋構想」の推進です。これは東アジア地域の平和の枠組みとして発展させる取り組みですが、日中両国は支持を表明しています。これまで日中両国政府はいがみ合うだけでなく、このような外交努力の積み重ねがあります。

(井)

## 花火

防衛省・自衛隊が自治体に青年の個人情報提供を求めるようになってきている背景には自衛官の募集・採用とも減少傾向が続いていることがあげられる▼榎川(こうけつ)厚さん(明治大学特任教授)は「自衛官の応募減少の背景には、少子化による労働人口減のほか、自衛隊そのものの変貌があります。自衛隊が専守防衛ではなく、事実上、外征型の軍隊になり、危険な戦場に送り出されるかもしれないということ、募集対象年齢の若者たちが感じているのではないのでしょうか」と述べている(しんぶん赤旗電子版2019年3月18日付)▼前田定孝さん(三重大学准教授)は、月間「住民と自治」(2022年2月号)の中で、「住民基本台帳の一部の写し」を提供することは閲覧しか認められていない住民基本台帳法「二条1項に違反すること、防衛省や自衛隊からの通知は技術的助言であり、これに応じないとしても市区町村は不利益な扱いをされない(地方自治法247条3項)」という趣旨のことを書いている▼自衛隊法施行令120条が個人情報保護条例の「法令等に定めがあるとき」にあたるのか、自衛隊員の募集のために18歳等の若者の個人情報提供することが、「公葬」の「必要」にあたるのか疑問である。



# 第二代我孫子市長 渡辺藤正さんのこと（下）

我孫子市を際立たせる特徴の一つに全国の自治体で唯一の鳥の博物館があります。この博物館は市役所近く、手賀沼に面した高野山に1990（平成2）年開館しました。

また2001年から毎年11月に鳥の博物館を中心にジャパン・バード・フェスティバルが開かれ、全国から野鳥ファンが集まってきました。フェスティバルの主催者は我孫子市、日本野鳥の会、我孫子野鳥を守る会、そして山階 やましな 鳥類研究所などです。



山階鳥類研究所

このように我孫子市は野鳥にかかわる施設やイベントの開催でユニークな都市として全国的に知られています。

その基礎をつくったのが市長渡辺藤正さんでした。藤正さんが我孫子に山階鳥類研究所を誘致したことが、その後の鳥の博物館建設につながり、ジャパン・バード・フェスティバルの開催とつながったのです。

山階鳥類研究所は1942（昭和17）年、山階芳麿が東京渋谷区につくった研究所ですが、1981年、研究施設の老朽化と施設の狭さを解消するため、東京郊外に研究所建設地を探していました。このことが新聞に報じられると王子市や佐倉市などから移転の申し入れがあり、我孫子市も研究所誘致に名乗りを上げました。

『山階鳥類研究所50年の歩み』には研究所の我孫子市への移転について、次のような記述があります。「移転先の土地は、我孫子市長渡辺藤正氏の再三の要請と同市企画部関係者等の敏速なる行為により、適地を探し、地主に交渉して申し入れてきた」。

山階鳥類研究所は81年4月、我孫子市高野山地区を視察し、11月に我孫子市への移転を決めました。

藤正さんの「再三の要請」が功を奏したわけですね。

また誘致にあたっては我孫子野鳥を守る会が山階会長に手紙を書くなどして積極的に働きかけました。

藤正さんは我孫子野鳥を守る会の機関紙『ほーほーどり』の創刊に際して「野鳥と親しみ花を愛し自然を愛して共存する市民意識が高まることを期待してやみません」とエールを送りました。

さらに機関紙『ほーほーどり』のタイトルに寄せて、藤正さんの奥さんが結婚して我孫子に来て、ほーほーどりの声をきいて寂しさを覚えたというエピソードなどを書いていきます。

なお、「ほーほーどり」とはフクロウの仲間であオバズクのことです。

全国に誇るバードシティ我孫子の基礎をつくったのは渡辺藤正さんでした。  
（竹）

## 松戸の21世紀の森に行ってきました



まず数千年前の縄文時代の竪穴式住居が復元されており、見学。50cmもある茅葺屋根の中でガイドさんの話を聞く。  
広大な森の広場ではお花畑があらこちらに。ムギナデシコ、パンジー、クリムソクローバーなど花盛りでした。

我孫子市は今年の市長選と県議選が無投票でした。候補者が定員と同数で夫々現職が当選となりました。

無投票当選や議員欠員は全国で散見され、5割に満たない投票率と共に民主主義の根本に係る大きな問題となっています。

法律では、候補者数が定員同数や満たない場合、候補者全員が無投票で当選となります。ところが、選挙が行われた場合は、有効投票総数の4分の1以上ないと当選できません（議員は定員数で割りその4分の1以上）。無条件当選と有効投票数での足切りの

5月12日、後援会の皆さんと初夏の自然を訪ねて21世紀の森へ行きました。あいにくの曇り空でしたが9人が揃い我孫子駅を10時出発、21森の広場へ。

ある当選とどちらが有権者の意思が反映されるでしょう。定員同数でも信任投票を実施すればどうなるでしょう。

## 無投票 ということ

信任数で有権者の意思が不反映。現状では我孫子市長は全面的に信任されたよう勘違いしているかもしれない。昨年7月以降の新有権者も1月に市長選挙の投票用紙を受け取っています。少なくとも新有権者は初投



千駄堀池を見渡すパークセンターのテラスで食事。ビール、銘酒で満喫。食後は野鳥観察舎へ、「野鳥の会」の人のサポートで望遠鏡でホウジロの観察ができました。思いがけぬ楽しいひと時でした。（江）

## エレベーター設置完了

4月26日、野村議員や市民などの長年の運動で、我孫子駅の四つあるホームの全てに待望のエレベーターが設置されました。  
高齢者やベビーカーのお母さんたちに、喜ばれています。



6・7番ホームエレベーターを利用する後援会の皆さん

票に胸を膨らませていたと思えます。ところが無投票。投票用紙は無駄になり、「選挙なんてこんなものか」と失望感もあつたでしょう。最悪の新有権者教育です。  
困難があつても、選択肢を市民に提示する努力を尽くす意義がここにもあります。  
8日の朝日新聞に旧統一協会との関係を認めた都道府県議員候補（大半が自民党）の9割が、半数以上の候補が得票数を減らしてはいるとはいえ、再選されその2割が無投票であつたとの記事がありました。  
（香）